**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　　その心は**

**お名前：　　林　幸香**

(下記より本文をご記入ください)

　２０年ほど前に仕事の関係で韓国に住み始めたころの話です。

　入社してまだ間もないとき、少し仲良くなった同僚と社員食堂に行きました。ブッフェ形式だったのですが、残飯が出ないよう、銀のトレーに自分が食べられるぴったりの量を考えながら載せ、彼女と向かい合って座り、食べ始めました。片言の韓国語と片言の日本語での会話でしたが、通じ合いたいという気持ちを彼女から強く感じました。嬉しく思っていたそのとき、彼女は一言の断りもなく私のトレーから揚げ餃子を取って食べました。あまりにも自然に２，３回繰り返されたその行為について彼女は何も触れず、会話を続けました。返却口に持って行った彼女のトレーには食べきれずに残ったキムチが載っていました。

また別の日、満員のマイクロバスに乗った私は、まっすぐ立つと天井に頭がぶつかるので、背中を丸めて椅子の背もたれにつかまりました。すぐにバスは出発し、舗装されていない道を進み始めました。２０分ほどの道のりをこの体勢で行くのはしんどいな～と思ったそのとき、椅子に座っていたおばあちゃんが、何か言ってきました。私はまだ韓国語が良く分からなかったので、応えられずにいると、私の手をつかんで私を膝の上に乗せました。初めて見るおばあちゃんでした。私はあわてて立とうとしましたが、バスの中は狭く動いているので力が入りませんでした。私が聞き取ることができたのは、おばあちゃんが繰り返す「ケンチャナ(大丈夫)」という言葉だけでした。目的地について乗客が全員降りたのですが、おばあちゃんは何事もなかったかのようにニコニコしながら去っていきました。

この２つのエピソードを経験したときに最初に浮かんだ気持ちは「え？！どういうこと？！」で、その次は「信じられない！あり得ない！」でした。それまでの日本での経験からは想像もできないことで、まさにカルチャーショックでした。そしてその後も、私がそれまでに普通だと感じていた、他人との距離感を越えてくるような行動はしばしばありました。最初は戸惑う気持ちが大きかったのですが、周りの人がそれらの行動を強く咎めなかったところを見ると、韓国ではそれが「あり得ること」なのかもしれない、と思うようになりました。

　韓国生活も１０年くらいたったある日、私は朝８時ごろバスに乗ってソウルに向かっていました。途中で５０代くらいの女性が乗ってきて私の隣に座りました。バッグの中からりんごと薄いビニール袋に入った熱々のトウモロコシを出した彼女は韓国語で「朝ごはんまだなのよ。あなたも食べて」とりんご４分の１とトウモロコシを半分くれました。私はそれを受け取り、初めて会った彼女と食べながら会話をし、楽しくソウルまでの道のりを過ごしました。私もだいぶ韓国に慣れたなぁ、とバス停で別れた彼女の後姿を見ながらしみじみ思いました。

今は韓国での仕事を終え、また日本に住んでいます。私のトレーから揚げ餃子を持って行った彼女とは今でもとても仲がいいです。韓国の学校では弁当を持ち寄ってみんなでシェアするそうです。食べ物は少ない量でも一人で食べず、一緒に食べるか聞いてくれます。上司と出張に行ったとき、「１本しかないから半分ね」とスティックガムの半分をもらって驚いたことがあります。まるで家族のようですね。日本では家族間でも見られない光景かもしれません。冒頭で述べたエピソードは全部、私を家族のように思ってくれた結果の行動だったということを私は１３年かけて少しずつ学びました。

韓国生活を通して学んだ最も大切なことは、自分の常識は必ずしも相手の常識だとは限らない。だからこそ、行動そのものを見るのではなく、その心がどこにあるかを見るのが大事だということです。韓国人の家族のように思ってくれた心を見ず、私の望まないことをする行動だけを見て判断したのなら、私の韓国生活はとても苦しいものになっていたことでしょう。

認識の違いによる誤解というのは韓国と日本という文化の違う人たちの間だけのことではなく、日本人同士でも十分に起こりうることです。もしかしたら日本人同士の方が、相手も同じことを思っていると勘違いしやすい分、起こりやすいかもしれません。相手が自分にとって不快な行動を取ったとき、相手は自分をわざと不快にさせようとしていることは実際は少なく、むしろ気づかずに、知らずに、認識が違うから、または良かれと思ってやっていることのほうが多いと思います。その心がどこにあったのかを理解しようと努力することで誤解を解き、心を通わすことができます。「私のことをわかってくれない相手がおかしい」と思うのではなく、「相手はなんでそう思うのだろう？何が足りなくて自分の気持ちが伝わらないのだろう？」という考えをベースに行動することで、何よりも自分の心が楽になった気がします。